

実感と納得をともなった理解をし、 分かる楽しさを味わう理科の授業の工夫

～課題設定学習とポスターセッションの効果的な活用を通して～

福島市立福島第三中学校教諭 島貫条司

I 「実感」と「納得」を求めて

私は、理科の授業の中で、次のような生徒の育成をめざしています。

めざす生徒の姿

- A 自然に対して、自分なりに疑問や考えを持ち、主体的に追求しようとする生徒
- B イメージづくり、関連づけ、意味づけなどを行いながら、自分なりの自然概念を形成していく生徒
- C 自分の考えを発表すること、他の考えを聞き認めることができる生徒

このような生徒なら、理科の学習がよく分かり楽しいと感じると思います。では、どのような授業をすれば、このような生徒に育つのでしょうか。下の表のように考えてみました。

特に、自然を理解するという事は、従来のように「法則や規則性を記憶し想起すること」や「想起した公式にあてはめて問題を解くこと」ではなく、「自分なりに実感でき納得できる“自然観”を持つこと」である、ということを中心に据えて指導をしなければならないと考えて、研究に取り組みました。

II 研究仮説

研究仮説

各単元の課題設定学習の時間において、主体的な探求活動（※1）の場を位置付け、結果をポスターセッション形式（※2）で話し合う学習を行えば、生徒は既習事項をもとに、積極的に課題を追求していきながら、実感と納得をともなった理解をし、分かる楽しさを味わうことができるであろう。

